

令和8年3月

第 317 回定例市議会

市長施政方針

はじめに

本日、第 317 回加西市議会定例会の開会に際し、令和 8 年度の予算をはじめとする諸案件の審議をお願いするにあたり、お時間をいただき、新年度の市政運営に臨む所信の一端を申し上げ、議員各位、市民の皆さまのご理解とご賛同を賜りたいと存じます。

令和 8 年度は、加西市の 10 年間にわたるまちづくりの指針である「第 6 次加西市総合計画」が折り返し地点を迎え、「後期基本計画」へと移行する重要な年であります。これまでの前期 5 年間における成果と課題を検証し、「大空に夢がふくらむ『未来の田舎（ミライナカ）』かさい」という将来都市像の実現に向けて、更なる飛躍へと歩みを進めます。そして、私が市長へ就任して以来、取り組んでまいりました市政運営の総仕上げとなる年にあたります。これまで市民の皆さまと共に積み上げてきた数々の施策を着実に進め、地域の発展と市民の暮らしをより豊かにするため、強い使命感を持って邁進してまいり所存です。

まず、最優先課題である人口減少という厳しい現実を正面から受け止め、「若者や女性に選ばれる」まちづくりを一段と加速させます。同時に、人口構造の変化に対応した持続可能な都市運営を強力に推進してまいります。本年 4 月には、泉地区の 4 つの小学校が統合し、新たに「泉小学校」が開校します。子どもたちが多様な人との関わりの中で健やかに学べるように、スクールバスの運行体制の確保や、夏季の熱中症対策としての体育館空調整備等、安心して学業やスポーツに打ち込める環境を整えてまいります。閉校となる施設につきましても、地域の皆さまと共に、新たな交流や活力を生む拠点としての活用を進めます。

次に、持続可能な地域社会の根幹となる「地域のきずなづくり」を推進します。人と人との交流を促進し、歴史伝統文化の継承による郷土愛を持った心豊かな人づくり

を進めます。特に、地域づくりの現場で重要な役割を担われている区長会やシニアクラブといった組織・団体への支援を強化するとともに、市民一人ひとりが地域の担い手として主体的に参画し「協創」のまちづくりを力強く推進してまいります。

市民の安全・安心を守る基盤づくりとして、防災・減災体制の強化を図ります。情報伝達システム「かさいライフナビ」や「加西市公式 LINE」を活用し、災害情報や暮らしに役立つ情報を、迅速かつ確実にお届けできる体制を構築します。また、災害対策本部機能を備えた「庁舎第二付属棟」での実践的な災害対応訓練の実施、自走式トイレカーの導入等、ソフト事業とハード整備を組み合わせ、市民の生命と財産を守り抜く体制をより強固なものとしてまいります。

地域経済においても、デジタル地域通貨「ねっぴ〜Pay」の更なる普及を図り、域内における活発な経済循環を強力に後押ししてまいります。防災と経済の双方でデジタル技術を浸透させスマートシティを加速させるため、「かさいライフナビ」と「ねっぴ〜Pay」の両アプリの導入を条件とした奨励措置を実施します。さらに、脱炭素先行地域づくり事業を推進し、持続可能な社会の実現に向けた取組を展開します。これら「田舎だけれども、最先端」の施策を社会実装することで、市民の皆さまの暮らしを支え、生活の利便性向上を図ります。長引く物価高騰から家計を守るため、国の物価高騰対応重点支援交付金を活用しながら上下水道基本料金の免除を継続的に実施し、市民生活の負担軽減に取り組んでまいります。

また、心身の健康を育み、活力に満ちた日常を創出するため、文化・スポーツの振興を積極的に推進します。市民の皆さまが多様な活動を通じて心の豊かさを実感できる機会を広く提供し、誰もがいきいきと暮らせる地域社会を創造してまいります。

現在、推進している市立加西病院の移転整備、小中学校の再編、総合運動防災公園の整備といった大型事業は、50年、100年先を見据え、市民の皆さまの尊い命を守り、子どもたちの夢を育み、そして活気に満ちたまちを維持するための極めて重要な投資であります。これらは将来にわたる加西市の発展を支える「未来への贈り物」であり、当該事業を着実に進め、基盤を固めることは、今を生きる私たち世代の大きな責務であると確信しております。

これらの大型事業は、行政のみならず市民や事業者が「協創」の理念のもと互いに手を携え、支え合うことで初めて、真の価値を発揮するものです。引き続き市民の皆さまのお声に真摯に耳を傾け、相互理解を深めながら、将来にわたって誰もが希望を持ち、心豊かに暮らし続けることができる加西市を創造してまいります。

予算編成の基本方針

それでは、令和 8 年度の予算編成にあたっての基本方針の概要を説明します。

令和 8 年度は、デジタル技術の急速な進展、少子高齢化、ライフスタイルの多様化等の社会の大きな変化に対応し、市民生活の質を高め、加西市がますます輝くまちとなるための施策を進めてまいります。

まず、デジタル化の推進にあたり、「かさいライフナビ」の普及を進め、災害時における緊急連絡体制を強化するとともに、平時にはデジタル回覧板として、地域住民間の迅速かつ広範囲な情報共有に活用してまいります。また、「ねっぴ〜Pay」につきましては、ポイント付与やキャンペーン等、事業内容を拡充することで、市内での消費活動を促進し、地域経済の更なる活性化を推進してまいります。

次に、地域住民が集い、社会参加を促すための施策を展開し、地域活力の維持・向上を進めます。また、地域住民の安全・安心を守るため、道路修繕や防犯灯の増設・更新、そして空き家の問題や多発する獣害への対策等にも取り組み、住みよい地域づくりを目指してまいります。

さらに、現在進めている大型事業では、令和 8 年 4 月に泉小学校が開校を迎えます。これに引き続き、令和 10 年度には加西中学校が開校するほか善防中学校区の小学校の再編も順次進めてまいります。加えて、市立加西病院、庁舎第二付属棟、総合運動防災公園等、将来を見据えた事業を推進します。これらの事業には多額の費用を要しますが、子育て支援や教育環境の充実、市民生活の向上を目的とした重要な投資事業であり、計画的に基金を積み立てる等、財源を確保したうえで、事業を着実かつ丁寧に進めてまいります。

一方で、こうした大型事業の実施に加え、人件費の増加や物価高により、さらに厳しい財政運営となることを見込まれます。そのため、引き続き行財政改革に取り組み、歳出削減に努めつつ、必要な市民サービスを充実させるべく、事業を精査・選定し、予算配分の重点化と事業の効率化を図ります。さらに、国・県の補助金や交付税措置率の高い起債を活用し、公債費の抑制、財政調整基金の確保に努め、財政規律を堅持した健全な財政運営を目指してまいります。

以上の方針のもと、令和 8 年度の予算編成を行ってまいりました。

令和8年度の主要な施策

新年度に取り組む主要な施策を、「第6次加西市総合計画」に掲げる4つの基本方針に沿って申し上げます。

【基本方針1 子育てを応援し、暮らしを愉しむ】

1つ目は、「子育てを応援し、暮らしを愉しむ」ための施策です。

(政策1 新しい家族と出会い、育むための支援の充実)

「出会い」から「結婚」、そして「妊娠・出産」「子育て」へと続くライフステージの各段階において、切れ目ない支援を充実させ、若い世代が加西市に定住し、希望を持って家庭を築き、安心して子どもを産み育てることができる環境を創出します。

まず、新たな出会いを応援するため、兵庫県の広域的な集客力を活かした共催イベントを推進します。

結婚から妊娠・出産の段階では、不妊症ペア検査や不育症治療費用を助成するとともに、電子母子手帳の活用や産後ケアお試し券の無料配布により、心身ともに寄り添い支援します。また、現在建設中の庁舎第二付属棟へ「こども家庭センター」の機能を集約し、妊娠期から子育て期まで一貫して支える体制を整えます。これにより、健診や予防接種を通じて子どもの成長を見守り、専門的な相談機能を高めることで、子育ての不安を安心へと変える伴走支援を展開してまいります。

次に、子育て期の支援として、令和8年4月から小学校給食費無償化が国策となりますが、中学校給食費については加西市の独自事業として無償化を継続し、子育て世帯の経済的負担の軽減を図ります。また、「すくすく子育て定期便」や「親子の絆づくり講座」等を通じて、育児の孤立化を防ぎます。保護者の就労状況に関わらず利用できる「こども誰でも通園制度」を本格実施するとともに、一時預かり保育、療育支援の充実を図ることで、集団生活を通じた子どもの健やかな成長を促し、保護者の育児負担を緩和します。さらに、保育教諭や学童支援員の確保と質の向上を図り、需要に応じた施設の受入体制を拡充します。

これら一連の施策を一体的に推進することで、地域全体で子育てを支え、誰もが健やかに暮らし、愉しむことができるまちを実現します。

(政策2 子どもの教育の充実)

魅力ある加西の教育の実現を目指し、「基礎基本の定着」「考える力を伸ばす教育」「グローバル人材の育成」からなる加西の教育3本の矢を推進し、新しい時代に柔軟に対応できる、挑戦する力・協働する力・創造する力を備えた、次世代型人材を育成します。

学校環境の改善については、GIGA スクール構想のもと、端末を活用したオンラインテストやデジタル教科書による学びを円滑に進めるため、校内ネットワークの改善に着手し、高速で安定した通信環境を整備します。あわせて、校務支援システムや保護者連絡ツール等のデジタル機器を活用することで、ペーパーレス化を図り、教職員と保護者双方の負担軽減を図ります。

さらに、児童生徒の運動中の熱中症リスクを低減し、安全に学習活動ができるよう、令和9年度までに小中学校の体育館等への空調整備を完了させるとともに、通学距離が片道2 km以上となる児童については、スクールバスでの登下校を支援します。

加えて、発達や学びの連続性を保つために学校間での連携教育を進めるとともに、地域の関係者との連携を充実させます。また、部活動の地域展開については、令和10年度夏の移行を目指し、地域関係団体との協議を進めます。

全国的にも増加傾向にある不登校における対策については、教育支援センター「ふれあいホーム」や全中学校に開室した「校内フリースクール」による支援を継続するとともに、民間フリースクールの利用補助を行い、多様な学びの場を保障します。また、令和8年度から新たにICT機器を活用した不登校の未然防止対策にも取り組みます。

学校再編については、令和8年4月に新たな「泉小学校」が開校します。また、令和10年4月の開校を目指す加西中学校については造成・建築工事を実施し、善防中学校区の統合小学校についても改修工事に着手します。

今後とも、学校・家庭・地域が手を取り合い、地域全体で学校運営や子どもの成長を支えていく「地域とともにある学校」づくりを推進します。

(政策3 生涯にわたって学び、楽しめる環境づくり)

市民の誰もが生涯を通じて学び、楽しむことができる環境を整えるため、公民館ごとの特色を活かした講座の開催や、登録グループによる主体的な活動を推進します。これにより、「いつでも、どこでも、誰でも」自由に学べる機会を充実させます。

図書館においては、幅広い世代に向けた読書習慣の定着への取組を進めます。あわせて、蔵書や電子図書の充実を図るとともに、公民館への予約本の受取や返却ができる機会を拡充させることで、市民にとって身近で便利な図書館サービスを提供します。

スポーツ分野においては、着実に「総合運動防災公園」の整備を進め、市民の健康増進、経済活動・地域活動の活性化、さらには防災力の強化を同時に実現することを目指します。また、スポーツ推進委員会を中心として、ニュースポーツの普及・推進を図り、市民一人ひとりが年齢や性別、障がいの有無に関わらずスポーツを楽しめる環境を整え、スポーツを通じた多世代交流と活力ある地域づくりを目指します。

文化芸術の分野では、文化連盟加盟団体による自主活動を支援するとともに、次代

を担う子どもたちが質の高い芸術文化に触れる機会を確保し、豊かな感性が育まれる環境を整えます。また、市内各地に残る貴重な伝統文化を継承し、未来につないでいくための保存・継承活動への支援を行います。

(政策4 暮らしを支える福祉・医療の充実)

「健幸アプリ」を活用した運動ポイント事業では、市民が楽しみながら自発的に健康づくりに励み、自然に健康になれるよう支援します。また、こころの健康習慣を広めるとともに、不調に気づき寄り添う「ゲートキーパー」の養成を実施します。さらに、町ぐるみ健診等の受診しやすい健診体制を整備し、生活習慣病予防と重症化予防に努めるとともに、がん検診の無料クーポン配布や個別勧奨を通じて、疾病の予防と早期発見を推進します。あわせて、いつまでも自立した生活を送るためのフレイル予防や食育の推進により、地域全体で健康を支え合う体制を築きます。

高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らせるよう、令和7年度に拡充したタクシー利用助成制度の利用促進を図り、移動支援を充実させます。さらに、シルバー人材センター等と連携した就業機会の創出や、「通いの場づくり」を推進し、高齢者の社会参加を後押しします。

生活困窮者に対しては、就労準備施設での訓練等を通じて自立に向けた実践的な伴走型ケアを行います。福祉的な支援が必要な子どもへは、学習支援やひきこもり対策、こども食堂への助成を通じて、社会参加と居場所づくりを進めます。

障がい者施策においては、重度化・高齢化・孤立化を見据えた地域生活支援拠点の整備や相談支援専門員の確保に努めるとともに、聴覚障がい者が安心して手続きできる体制構築や手話の普及啓発を図ります。

加西病院については、「新病院基本構想・基本計画」に基づき、令和12年度の開院に向け、建設・造成工事の設計を進めます。あわせて、持続可能な病院運営を実現するため、新病院での計画病床数136床を見据え、令和8年度からは病棟数を現在の4病棟から3病棟へと見直し、人員体制の適正化を図ることで経営改善に取り組みます。また、医師確保の対策として、将来、医師として加西病院に勤務を志す医学生に対し、奨学金制度により支援します。

【基本方針2 活力とにぎわいのあるまちを育む】

2つ目は、「活力とにぎわいのあるまちを育む」ための施策です。

(政策5 農業の再生と活性化)

将来にわたって発展し続ける農業を実現するため、地域計画に基づき農地の集積を進める大規模生産者に対して、経営の効率化や規模拡大を図るための機械施設整備や

雇用に対する補助制度を拡充します。また、国・県の補助制度も積極的に活用してまいります。

あわせて、中山間地域の条件不利地対策や環境負荷低減のための環境創造型農業を推進し、多様な農業のあり方を支援します。ほ場整備事業につきましては、在田南部地区の整備を推進し、基盤整備による生産性の向上を図るとともに、スマート農業の導入を促進することで、更なる生産コストの低減と生産拡大を目指します。

新規就農については、これまでの経験とネットワークを活かして就農希望者の誘致と定着に向けた支援を進めます。また、特産農産物の柱であるブドウについて、加西市独自の棚整備や苗木購入の補助を継続し、生産基盤を支えるとともに、ベリーAから改良された大粒で種なしの新品種「BK シードレス」の特産化をJA兵庫みらいと協働して推進します。産地の認知が進みつつあるハボタン等の花卉については、好評のハボタンフェアを県と協働して開催し、消費者への更なる普及とPRを後押しします。

タウンミーティング等で多くのご意見をいただいている、担い手不足等による草刈り対策については、新たに農会に対する大型草刈機械の購入補助を行います。また、有害鳥獣対策として、獣害防護柵の設置支援を基本としつつ、狩猟免許取得者による捕獲活動を推進し、農作物被害の軽減に取り組みます。

（政策6 商工業の振興と新展開）

市内事業者が新しい価値創造へ挑戦しやすいように、デジタル化による労働生産性の向上や、最適な事業環境の整備を支援します。あわせて、「ねっぴ〜Pay」を活用して地域通貨の域内循環を推進することで、地域経済の活性化とキャッシュレス決済の普及促進を図ります。さらに、若者等の起業や事業承継については、商工会議所と連携して、スタートアップ支援や空き店舗活用補助を行います。

令和8年4月に実現する都市計画の線引き廃止を活かし、都市計画マスタープランで掲げた「かさいセントラルスクエア」周辺や副都市核、地域の拠点等への生活利便施設の誘致を進めます。産業用地につきましても、幹線道路沿道での新たな産業用地の整備支援や市内企業の拡張・移転支援を加速させ、企業活動の活性化を促します。また、加西インター産業団地については、令和7年度に第1期事業の企業用地の引き渡しが完了し、現在は、第2期事業として企業誘致を進めております。引き続き、公民連携により、地域経済の成長と雇用の基盤となるよう、着実に事業を進めます。

地域企業の雇用情報の発信や求職者と企業のマッチング支援の充実を図り、雇用力を高める環境づくりを推進します。令和8年度は、工業高校生を対象に市内企業の見学会を実施し、地域産業を支える若手人材の確保を推進します。また、ふるさとハローワークによる若者・女性への就労支援や、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境づくりを推進し、市内労働者が健康で意欲的に働くことができる環境を整えま

す。

(政策7 地域資源の活用と人の流れの創出)

「sora かさい」を起点として周辺の地域資源を活用し、民間との連携による効率的な施設運営を図ることで、新たな人の流れと賑わいを創出します。気球搭乗体験やサイクルツーリズムといった体験型観光を推進し、交流の深化を図ることでリピーターの獲得を進めます。また、豊かな農産物や食文化、自然環境等、加西市の地域資源を活かしたイベントの開催に加え、デジタル技術を活用した戦略的な情報発信により誘客を促進します。これにあわせて、観光事業者向けのプロモーションを強化し、関係人口・交流人口の拡大を市内経済の活性化へとつなげてまいります。さらに、市内に残る貴重な歴史文化遺産については、市民が郷土の歴史に触れ、学ぶ機会を設けることで、地域への愛着と誇りを醸成します。

ふるさと納税については、ポータルサイトへのアクセス向上や魅力的な返礼品の開発・発掘を進め、加西市の多彩な特色を全国へ発信し、寄附の獲得と地域産業の振興を図ります。

移住・定住については、関係団体と連携したお試し滞在施設や空き家バンク制度の活用により、空き家・空き店舗の利活用を促進します。新たな居住者や起業を呼び込むことで、活力あるまちづくりを実現してまいります。

【基本方針3 快適に暮らせる安全な社会をつくる】

3つ目は、「快適に暮らせる安全な社会をつくる」ための施策です。

(政策8 安全・安心に暮らせる環境の充実)

防災対策では、地域防災の要である自主防災組織と消防団の充実を図り、地域特性に応じた防災訓練を支援します。「かさいライフナビ」の更なる普及を促進し、災害発生時に必要な情報を市民に確実に届けられるよう防災体制の強化に取り組みます。また、庁舎第二付属棟での実践的な災害対応訓練の実施や、自走式トイレカーの導入等、ソフト・ハード両面から災害に強いまちづくりを推進します。また、全国各地で被害が出ているクマの出没については、関係組織との連携を図り被害防止に取り組みます。

防犯対策では、防犯灯の適切な維持管理を行うとともに、主要な交差点や公共施設への防犯カメラ設置や地域団体の防犯カメラ設置に対する助成を引き続き実施し、犯罪の抑止に努めます。交通安全対策では、高齢者向けの交通安全教室を開催し、交通安全意識の向上を図ることで、未然の事故防止を図ります。

消費者保護の観点から、「かさいライフナビ」を活用したタイムリーな注意喚起や

消費者講座の開催案内等、詐欺被害の未然防止に向けた啓発活動を強化し、予防に重点を置いた施策を展開します。あわせて、警察や地域団体、事業者と緊密に連携し、社会全体で消費者トラブルの防止に取り組み、安全・安心な市民生活を守ります。

(政策9 快適な都市空間の創出)

住環境の整備について、引き続き北条市街地における低未利用地での住宅地整備を支援します。現在の市街化調整区域の均衡ある発展については、都市計画の線引き廃止に伴い、市内全域で住まいを選択できる環境を整えるとともに、特定用途制限地域の設定により、地域の拠点に生活機能をコンパクトに集約することで、生活利便性を高め、移住定住を促進します。また、小中学校の再編により発生する学校跡地の活用については、地域の意見を丁寧に聴きつつ、地域の持続に効果的な住宅地整備や活力再生に資する各種施設の誘致を進めます。とりわけ、これら住宅整備と子育て・教育施策を融合させ、魅力ある住環境を創出することで、市外からの通勤者を含めた現役世代の移住定住を強力に推進します。

環境政策においては、「かさいスマートエネルギー」と連携して、再生可能エネルギー電力の導入・拡大と自立分散型システムの構築、脱炭素化への取組を支援することで、エネルギーの地産地消が定着した脱炭素社会の実現を目指します。

ごみ対策では、資源リサイクルを積極的に後押しするとともに、不法投棄や野焼き防止の啓発を徹底します。また、災害時においても滞りなくごみ処理ができるよう体制整備を進めます。さらに、小野市、加東市と共同で建設を予定している新ごみ処理施設について、両市と連携して計画を進めます。一方、老朽化した加西市クリーンセンターは、安全面を考慮して解体を進めます。

生物多様性に育まれた自然環境づくりを推進するため、あびき湿原の希少生物の生息状況に関する調査結果を取りまとめ、貴重な生態系を地域住民と協働して保全してまいります。

(政策10 安全性と利便性が確保された都市基盤の整備)

道路網の整備については、市民生活の利便性向上と物流の効率化を図るため、幹線市道の改良工事を計画的に実施するとともに、新たに4地区で新規路線の調査設計を進めます。また、広域的な幹線道路である国道・県道の整備、とりわけ国道372号加西バイパスについては、県との連携を密接に図り、早期完成に向けて着実に取組を進めます。身近な生活道路については、市内全地区の地域要望への対応に重点を置き、市民生活に欠かせない市道の修繕や通学路の積極的な整備を進めるとともに、河川や橋梁の計画的な修繕により安全確保に努めます。

水道事業、下水道事業では、経営戦略に基づき、持続可能な経営に努めます。特に

水道事業は、令和 8 年度から受水元が県営水道に一本化されるため、より効率的な運営体制を構築してまいります。

公共交通に関しては、「加西市地域公共交通計画」に基づき、北条鉄道・コミュニティバス・路線バスといった既存公共交通の利便性を一層高めるとともに、地域主体型交通との連携により、市民の誰もが外出しやすい交通ネットワークを構築します。特に、地域の重要な足である北条鉄道では、令和 8 年度から ICOCA システムの運用開始により利便性の向上を図りつつ、老朽化した車両の更新により、安全で継続的な鉄道事業を推進します。

【基本方針 4 ともに活躍しまちの魅力を高める】

4 つ目は、「ともに活躍しまちの魅力を高める」ための施策です。

(政策 1 1 協創のまちづくりの推進)

「加西市地域づくりのあり方指針」に基づき、市と地域が一体となって地域づくりを進めます。特に、自治会の組織強化と地域活力の再生に注力し、人と地域をつなぐ「きずなづくり」を通じて、住民相互の交流と域内連携の強化を図ります。また、地域交流センターの団体登録制度を活用し、団体相互のネットワーク化を促進することで、ボランティア活動をはじめとする市民活動を活性化させ、市民参画のまちづくりを推進してまいります。

情報発信においては、各種施策やサービス、制度の周知を徹底するため、市民の皆さまに伝わりやすい広報誌の作成に努めます。また、報道機関への効果的な情報提供に努めるとともに、ホームページや「かさいライフナビ」、「加西市公式 LINE」等のデジタルツールを活用し、市民一人ひとりの状況に応じた情報をタイムリーに発信していきます。

広聴活動として、市長への手紙やタウンミーティング等を通じ、市民のニーズを把握し、市民の皆さまから寄せられる提案や要望、意見に対し、適切かつ迅速な対応を行うことで、信頼される市政運営を行います。

(政策 1 2 お互いを認め、尊重し合える社会の実現)

「加西市人権尊重のまちづくり条例」の趣旨を踏まえ、お互いの個性を認め合い、あらゆる差別を許さないまちづくりを推進します。児童虐待やドメスティック・バイオレンスに対して、関係機関と緊密に連携し、迅速な被害者保護と安全確保に努めます。あわせて、高齢者や障がいのある方が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、権利擁護支援を強化し、誰もが支えあう地域共生社会の実現を推進します。

男女共同参画の視点からは、女性のスキルアップを推進するとともに、社会におけ

る男性の生きづらさにも着目し、性差にとらわれず、誰もが自分らしく、あらゆる場で活躍できる社会を築いてまいります。

多文化共生については、「加西市グローバルセンター」を交流拠点として位置づけ、日本語教育や居場所づくりに取り組み、外国人と日本人が共に支え合い、誰もが住みやすいまちづくりを目指します。あわせて、関係部署と連携をとり、全庁的な多文化共生の推進体制強化と事業の拡充を図ります。

(政策 1 3 効率的で持続可能な行財政の推進)

行政サービスの効率化や質の向上を図るため、行政事務のデジタル化をさらに推進します。また、窓口業務の改革を進め「書かない窓口」とともに、マイナンバーカードを活用したオンライン申請の拡充により「行かない窓口」を推進し、申請手続きの負担軽減と利便性の向上に努めます。

また、「公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設の老朽化対策として施設の長寿命化を図ります。その上で、将来にわたって真に必要な施設については、新設や建て替えにより機能を確保・充実させる一方で、既存施設の集約化・複合化・統廃合を進め、施設の最適化を推進し、将来にわたる財政負担の軽減・平準化を図ります。

広域連携については、北播磨広域定住自立圏や播磨圏域連携中枢都市圏、一部事務組合の強化を図り、近隣自治体と連携した取組を積極的に進めてまいります。加えて、産官学と市民が一体となった「かさい『ミライナカ』くらしラボ」の活動を通じ、地域課題の解決や産業の活性化を図るとともに、行政サービスの向上を目指します。

また「SDGs 未来都市」として、多様な主体による地域貢献活動を支援するとともに、新たなサービスや取組を共創し、市民の「幸福度」の高いまちを目指します。

最後に

以上、令和 8 年度施政方針に基づき、今定例会に提案させていただいております「令和 8 年度当初予算案」をはじめ、各議案につきまして、ご審議をよろしくお願い申し上げます。

令和 8 年度は、これまでの歩みを確かな形へと導く総仕上げの年となります。これまで種をまき、育んできた数々の事業、とりわけ未来の礎となる大型事業を確実に形にすべく、強い決意を持って着実に推し進めてまいります。

健全な財政運営を堅持しながら、市民の皆さまと共に未来を創るため、これからも皆さまの声を大切に、地域の発展と市民の幸福の実現に全力を尽くす所存であります。

議員各位、市民の皆さまのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。